



呼び水 ～その子をとらえて～

校長 桃井 陽子

雨の多い9月でしたが、「暑さ寒さも彼岸まで」の言葉の通り、ここ数日来、少しずつ空も風も秋めいてきたように感じます。27日、29日の朝の運動場では、今年度も市小学校体育大会に選手として参加する6年生のために、原中学校の陸上部の皆さんが朝練習の指導に来ていました。走り幅跳びに出る6年生に踏み切りの足について具体的なアドバイスをしていたり、リレーのバトンパスの仕方について一緒に走ったり、指導する中学生の温かさやそれを真剣に受け止める6年生の姿が、大変ほほえましく感じました。毎年のことながらありがたいことです。あと2回、予定されています。どうか晴れますように。

呼び水

井戸水をポンプで汲み上げるのに
水が出ないときは呼び水をしました
井戸の水が管の途中まで上がってきても
途中から上までが空になっていては
ポンプをいくら上げ下げしても
スコップ スコップ というだけで 水は出てきませんでした

こんなときは バケツ一杯の水を注ぎ込んで 空の部分を満たしてから
ポンプを上げ下げすれば 水はいくらでも汲み上げることができました
子どもの心に バケツ一杯の呼び水を注いでみましょう
そうすれば 心の水脈からこんこんと清水が溢れ出てくるでしょう
…略…

左の詩は、私がまだ学級担任をしていた頃、たいへんお世話になった金子典義先生という方がつくられた詩です。この詩と出会い、私は目の前の子どもを見るときに、いつもこの子にとっての「呼び水は何だろう」と考えるようになりました。

私が小学校1年生の時、この一年間だけ、給食ではなくお弁当でした。このお弁当の時間になると、私はどういふわけか胸がいっぱいになり、お弁当がのどを通りませんでした。

母親が朝、私のために一生懸命作ってくれたお弁当ということは重々分かっていても、せいぜいお弁当箱の角の一口だけやっと口に入れ、後は残しました。そのくせ家に帰ると元気いっぱい、夕方まで近所の子と遊ぶ、そんな子どもでした。どうして食べられなかったのか、未だに分かりません。その時、自分はどのようにしてほしかったのかもよく分からないのです。でも、お弁当の時間になると、胸がいっぱいになるその感覚は、今でもはっきりと残っています。

子どもたちが、いつも明るく素直で活発で積極的であるはずはなく、どの子も、時には自信がなく、時にははずかしく、何かに困り、悩んでいる、その時々の中の思いの中にあるということを忘れないでいたいと思います。

その子にとっての「呼び水」は何だろう。この詩はこう続きます。

「呼び水」は

受容 共感 ほめことば 感謝の言葉 ねぎらいのことば
やさしいことば 愛のことば 許しのことば
真心にふれることば …略…

その時々の子をとらえて、私たち、子どもを取り巻く大人は、その子にとっての「呼び水」を機を逃さず、注いであげたいと思います。

「呼び水」に誘われて、生き生きとした子どもの姿が呼び出されてくることを期待して…。

さて、学校は10月7日で前期が終わります。それぞれの成長を振り返り、「あゆみ」でお伝えします。「呼び水」となる言葉はどのような言葉でしょう。ご家庭でも話題にいただき、よりよい後期につながるよう、よろしく願いいたします。

地域の皆様、保護者の皆様、前期の教育活動へのご協力ありがとうございました。引き続き、後期もどうぞよろしくお願いいたします。

お知らせ

毎年、2年生の生活科のサツマイモ栽培等、本校の子どもたちと日常的に深くかかわってくださっている相澤としえ様より、この度、二宮尊徳像を寄贈していただくことになりました。未来を創る子どもたちが、勤勉さを大切に、希望をもって学が意欲をより一層高めてほしい、という願いが込められています。場所は、正門を入ってすぐの円形花壇の中心部です。10月3日に設置の予定です。



「だれかのために」

副校長 高嶋 聡

本校の開校は、沿革史にもあるように、昭和18年10月です。開校当時は、見渡す限り原っぱで、さえない物もなかったそうです。きっと富士山がきれいに見えたことでしょう。

原小学校は10月に73回目の誕生日を迎えました。職員室前の廊下には、開校間もない頃の学校の様子の写真や年代ごとの航空写真、これまでの運動会の記念品などが展示されています。70年以上の歴史をもつ原小学校のあゆみを感じることができます。10月17日には、全校児童が参加して創立記念式が行われました。今年、平成17年度の卒業生の相原亜斗夢様にお越しいただき、原小学校在学時の様子やその後の活動などについてお話していただきました。大学生時代に力を入れていたボランティアの活動についてもお話しいただき、そこで学んだ挑戦することの大切さを子どもたちに伝えてくださいました。社会をより良くしたい、多くの方々のために自分の力を使いたいという願いをもち、目標に向かって挑戦した姿から子どもたちは多くのことを学ぶことができました。

また、創立記念式では、「原の子のために」と二宮尊徳像を寄贈していただいた相澤としえ様に教育委員会からの感謝状を贈呈させていただきました。勤勉さを大切に原小学校での日々を大切に過ごしてほしいという思いをお話しいただき、文部省唱歌「二宮金次郎」をステージ上で披露してくださいました。今の日本人がもう一度振り返り、大切にしなければならないことがこの歌の中に込められていると思います。

正門を入ってすぐの円形花壇の中心に立つ二宮尊徳像は、ずっと前からそこにあったかのように自然な姿で佇んでいます。

現在、原小学校は「原の子のために」とたくさんのボランティアの方々にお力添えをいただいております。本当にありがたいことです。朝の登校の見守りから学習等の補助、いきいきキッズタイム、図書室の整美・読み聞かせやクラブの活動、花壇等の環境整備など、実に多くの場で、忙しい日々の中で時間を作ってください、活動していただいています。11月2日には、これまでお世話になっている皆様に「ありがとう」を伝える感謝の会を行います。短い時間ですが、日頃の感謝をお伝えすることができればと考えています。

コツコツ努力し、自分の苦勞は厭わず、「だれかのために」自分の力を尽くそうとする精神を多くの人のもつことによって、社会全体がより明るく、過ごしやすいものになると思います。

先日の5年生の御殿場宿泊体験学習では、様々な場面で自主的な態度に加え、まわりの人のために進んで動く姿がたくさん見られました。また、2年生の「おもちゃランド」では、おもちゃで遊ぶ人のことを一生懸命に考えた活動をしています。教師がこのような子どもの姿をしっかりと見取り、価値づけていきます。

学校での様々な活動の中で「だれかのために」自分の力を使うことの気持ちよさを子どもたちが実感することを大切にしていきます。

二宮金次郎 文部省唱歌

- 一 柴刈り履なひ草鞋(わらぢ)をつくり、
親の手を助(す)け弟(おとど)を世話し、
兄弟仲よく学(ま)ぶ、
手本は二宮金次郎。
- 二 舟身を備(を)し、まず仕事をほひみ、
復(た)げなべ済(な)して手習(てならひ)読(よ)書、
せはしい申(ま)にも情(なさけ)まず学(ま)ぶ、
手本は二宮金次郎。
- 三 家業大事に費(つひえ)をはぶき、
少しの物をも粗末(こまつ)にせず、
迷(まよ)には身を立(た)て人(ひと)をもすくふ、
手本は二宮金次郎。

『尋常小学唱歌(二)』明治44年6月



生き方に学ぶ

校長 桃井 陽子

朔風葉を払う。花や鳥や草木や自然現象にまなざしを向ける日本の七十二候では、冷たい北風が、木々の葉を払い落とす今の時期をこんなふうに表示するようです。朔風の朔とは北という意味で木枯らしのことです。

11月24日は関東にも真冬並みの寒気が流れ込み、1962年以来、54年ぶりの早い雪の便りとなりました。その日は来年度入学する子どもたちの就学時健診。朝からの、この早すぎる雪に思案しながらも、受付場所や並ぶところを変更し予定通りに実施させていただきました。午後になって幸い雪はやんできましたが、寒空の中、ご苦労をかけてしまいました。

さて、今年度はリオデジャネイロのオリンピック・パラリンピックイヤーでした。暑い夏、リオとの時差に眠気と格闘しながら、選手の活躍をテレビの前で応援していた私です。

そしていよいよ、2020年は東京開催です。横浜市では、東京2020オリンピック・パラリンピック開催を契機に更なるスポーツ振興とオリンピック・パラリンピック気運を高めるためオリンピック・パラリンピック出場経験者（オリンピック・パラリンピアン）と直接触れ合う事業を実施しています。

11月21日（月）原小学校に北京パラリンピック、アーチェリー銀メダリストの神谷千恵子選手をお招きしました。神谷さんは21歳の時にリウマチを発症後、アーチェリーと出会い、競技を始められた選手です。神谷さんが40歳の時、年齢や障がいがあるなしに関係なく、健常者と障がい者が同じルールで競技できる唯一のスポーツ、アーチェリーと出会ったこと。関節リウマチについて。体にはたくさんの関節があり、関節がどんどん痛くなり、かたまってしまう病気であること。世の中にはゆっくり歩いている人の中に、足が痛い人もいることを想像してもらえるとうれしと、一見どこに障がいがあるのか分からない神谷さんは、子どもたちに分かりやすく、ご自身の障がいについて説明されました。痛みと闘いながら努力し、北京パラリンピックで見事、銀メダリストとなった神谷さんは応援して下さったたくさんの人たちへ感謝し、「技術も大事だが、心の持ち方が大事である。」「がんばりたいときにがんばれるのは、それを支えてくれる人がいるからということをお忘れなさい。」「何でもいいからまずやってみる、未来を可能性を信じて。」と話された笑顔が心に残りました。神谷さんの「生き方に学ぶ」貴重な時間となりました。

6年生はその後、車椅子バスケットボールチームによる実技体験をしました。車椅子バスケットボールの実演、車椅子体験、リレー、鬼ごっこなど楽しみながら車椅子体験ができました。私も実際に、車椅子を操作しながら前進、フル回転して前進そしてUターンするという体験をしましたが、うまく操作できると楽しいことを実感しました。この日来られた方の中には健常者の方もいて、車椅子バスケットボールが楽しいからやっているということでした。健常者も障がい者も関係なく、車椅子を使ってスポーツとして楽しむことを知る、よい機会となりました。

原小学校では12月1日から9日を人権週間としています。11月21日の朝会で「横浜子ども会議」に代表として参加した6年生の森田夏華さんに報告をしていただきました。

その中で、森田さんは「一人ひとりが自分の言動に責任をもつことで、その言動によって傷つく人がいなくなり、いじめをなくすために動いてくれる人も増える。」と伝えました。原の子委員会の子どもたちが、いじめをおこさないため、またなくすために大切なことを知って行動にうつしてもらうためにCMをつくり、給食の時間に流しています。

保護者の皆様、地域の皆様、平成28年の本校の教育活動に様々な形でご協力、ご支援いただいたことに深く感謝しております。ありがとうございました。

来る平成29年も、お力添えをどうぞよろしくお願いいたします。

原小だより



横浜市立原小学校

平成29年 1月12日

1月号

<http://www.edu.city.yokohama.in/sch/es/hara/>

自分を見つめる

～ゴールの姿をイメージする～

校長 桃井 陽子

新しい一年が始まりました。皆様にとりまして、平成29年も新春のすがすがしい青空のように、ご健康でご多幸の年となりますように心からお祈り申し上げます。

1月8日は阿久和南部連合自治会の「どんど焼き」が阿久和久保原公園グラウンドでありました。お正月で使ったお正月飾りを火にくべ、歳神様をお見送りしながら無病息災や五穀豊穡を願う日本の伝統行事。「ふるさとの風物詩」としての、この風景に感銘を受けながら、私もお団子をいただき、健康を祈りました。

さて、お正月の箱根駅伝を楽しみにされている方も多かったのではないのでしょうか。結果的に青学大が史上初の3連覇&大学駅伝3冠に輝きましたが、参加したどの大学も、どの選手もたすきをつなぐことに全身全霊を傾け、今年もたくさんの感動がありました。たすきをつなぐことは、仲間を、心をつなぐこと。また選手にエントリーされなかった人も、その悔しさを超え、仲間を思う気持ちに心を動かされました。夢の舞台箱根をイメージして練習を重ねてきたプロセスは、選手になってもならなくても、その後の自分の大きな力になる、経験に無駄なしと改めて思いました。

10日の朝会では、あいさつお願で〇やの付く言葉をいくつかつないでお話をしました。

新しい年の始まりは、今の学年のゴールに向かう時間の始まりです。あと3ヶ月、一人ひとり、自分がどのようなゴールを迎えたいのか、自分のゴールの姿（なりたい自分の姿）をイメージして生活してほしいと思います。今日は〇やの付く言葉を集めてつないでみました。自分のゴールの姿に向かうために、まずは、自分がやるべきことをやる。（あいさつ、係の仕事、委員会活動、掃除、近くに困っている人がいたら自分が助けると考える、ノートを大切にする、文字を丁寧に書く…）そして、それをやり通すこと。やり通すことで、心地よくやりがいを感じるようになっていく。そして、やってみること。やってみて分かることっていっぱいある。やってみて失敗してもいいじゃない、次にどうしたらいいか考えることが大切。そしてどんどんやる気が出てくる。

3ヶ月後、自分が思うようなゴールの姿が、きっとそこにあります。その姿は、そのまま次のスタートにつながります。一人ひとりの3ヶ月に期待します。みんなでよい年にしましょう。

やってみて分かることがたくさんある。やり通して得られることがたくさんある。子どもたちには、そのような経験を積み重ねて今の学年のゴールを迎え、次のスタートにつなげてほしいと思っています。学校は、子どもたちのこのような経験を保障する場・環境でありたいと思います。

お知らせ

◎原小学校には約200本の樹木が植えられており、その一本一本に植える時の地域の方の思いが込められています。原小学校とともに大きく育った樹木ですが、残念ながらその中には寿命を迎えている木もでてきました。地域代表として相原 明さんに立ち会っていただき、業者とともに、伐採しなければ危険な木を見て回りました。12月半ばの三日間を使い、10本近い木を伐採、半伐採させていただきました。根元を見ると確かに中が空洞になってしまっていることが分かり仕方ないことと思いつつも、伐採によってできた木と木の空間を、さびしい気持ちで見つめました。

◎原小学校は、平成27年度に直結給水化工事が完了しており、その際、屋外水飲み場までの配水管を耐震管にて布設されていました。12月27・28日に、本校防災備蓄庫前のスペースに、横浜市では第1号となる「耐震給水栓」の設置工事が行われました。これによって大地震のような災害時でも、水を供給することが可能になりました。

災害に強く、温かさに満ちあふれた地域「ふるさと」を土壌とし、今年も保護者の皆様、地域の皆様のご支援、ご協力をいただきながら子どもたちの健やかな成長を目指し、日々の教育活動の充実を教職員一丸となって推し進めていきます。引き続き、どうぞよろしく願いいたします。